

# 宍道湖流入・流出水調査月報

(平成14年6月期)

## 水質概要

6月の水温は、表1に示すとおり平年値(上層23.5、中層25.9、下層22.6)と比較してほぼ平年並の変動であった。図1に示すように、6月の水温は22~26で変動しており、6月中旬(6月20日頃)が最も高くなっていた。水深による顕著な差異は見られなかった。

6月の塩分は、表1に示すとおり平年値(上層10.4psu、中層13.9psu、下層17.0psu)に比べて、低い値を示していた。また、6月観測においては、高塩分水の遡上はほぼ周期的に確認された。

6月の溶存酸素濃度は、表1に示すとおり上層・中層・下旬ともに3.3~4.8mg/lの変動であった。(平均値:上層4.1、中層:4.4、下層:3.7)。概ね4mg/l以上の変動であり、顕著な貧酸素水の流入は見られなかった。

図1に示すように、顕著な変動は見られなかった。

表1 6月期の水質概要

		水温	塩分	溶存酸素濃度
		( )	(PSU)	(mg/l)
上旬	上層	24.1	6.6	3.7
	中層	23.7	11.4	4.5
	下層	23.6	13.2	
中旬	上層	25.8	7.6	4.8
	中層	25.8	10	4.3
	下層	25.8	10.8	3.3
下旬	上層	23.7	6.8	3.8
	中層	23.7	11.1	4.5
	下層	23.6	10.6	4.1
月間平均 (6月)	上層	24.5	7	4.1
	中層	24.4	10.8	4.4
	下層	24.3	11.5	3.7

(水温・塩分平均値は、島根大学 宍道湖・中海水質月報、1994年4月より引用)

(表の中の数字は、平均値を示す)

## 水質

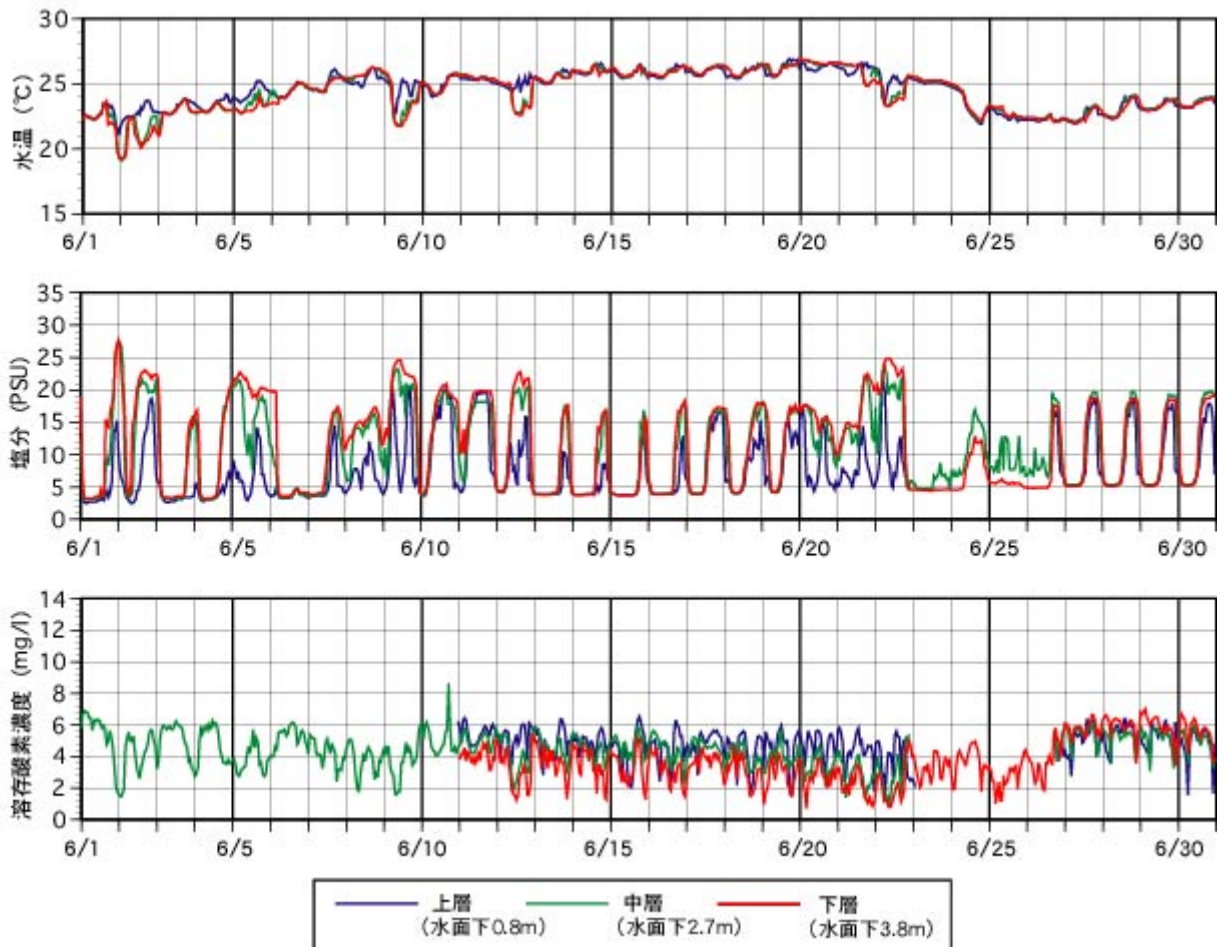


図1 水温・塩分・溶存酸素濃度の時系列変化

## 気象概況

図2に示すように、6月の顕著な気圧変動は、全体として1000hPa以上の変動であった。平均気圧1005.9hPaは、平年値（平年値1008.7hPa）と比較して低かった。

表2に示すとおり、6月の日射量は、0.1356MJ/m<sup>2</sup>であり、5と比較して若干高い値を示していた（5月平均値：0.1138MJ/m<sup>2</sup>）。

6月の風向・風速は、平均風速0.9m/sec（平年値3.2m/sec,東風）であり、平年並の値と比較して低かった。

表 2 6 月期の気象概要

	気温 ( )	気圧 (hPa)	風速 (m/sec)	風向	日射量 (MJ/m2)
上旬	22.6	1007.1	1.1	南南東	0.1723
中旬	23.4	1003.5	1	南南西	0.1411
下旬	20.6	1007.1	0.6	南東	0.0935
月間平均 (6月)	22.2	1005.9	0.9	南南東	0.1356

( 平年値は、平成 13 年気象の暦 ( 山陰版 ) ( 財 ) 日本気象協会中国センターより引用 )

( 表中の数字は、平均値を示す )

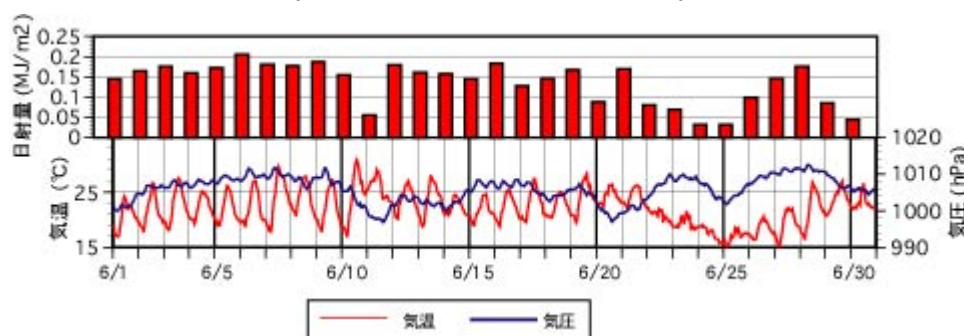


図 2 気温・気圧・日射量の時系列変化

## 流況

6 月の平均東方流速は、上層-3.5cm/sec、中層 3.1cm/sec、下層 2.4cm/sec であった。6 月の東方流速は、潮汐による往復流は見られた。西方流速が卓越する 6 月 24 日に塩分が上昇していることから、高塩分水が流入していることが分かる。

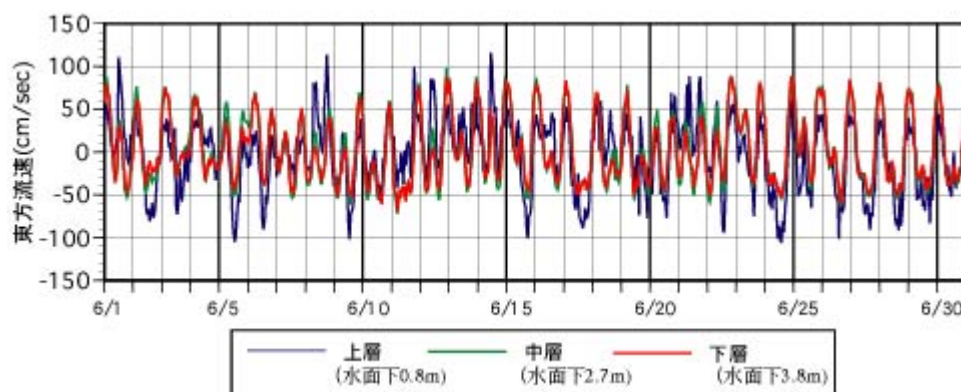


図 3 東方流速の時系列変化

---